

## 「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】、【バイオマス】

- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 愛知県 <sup>とよたし</sup> 豊田市 |
| 2. 事業者名     | 豊田・加茂 菜の花プロジェクト         |
| 3. 取組みの名称   | 食品副産物と遊休地を利用して農業の活性化を図る |
| 4. 取組概要等    |                         |

### 概要

昭和20年ごろから養豚業を営む。昭和55年頃食品副産物を飼料化。だんだんと肥料化事業に移行し、昭和58年食品副産物を有機肥料としてリサイクルする事業を手がける(有)花丘商事を設立し、休耕地に肥料を還元することにより農地を活性化させ、花いっぱいにする運動を展開。平成12年より菜の花が資源循環作物としてすばらしいことに着目し栽培。平成15年地元産菜種100%使用した「豊田・加茂のなのはな油」の生産に成功。平成17年3月関連のある食品会社、肥料を使う側の農家、消費者グループ等が資源循環について共通理解を持つことが大切だと思い、「豊田・加茂菜の花プロジェクト」を立ち上げる。

持続可能な循環型社会の形成には、農家、企業、消費者、有識者が共通理解を持ち、協力、連携していくことが必要である。農家は、無農薬・自然栽培などを取組み、食品会社は、食品副産物を再利用する際の安全性確保と責任を担ってもらう。また、消費者は、食の安全や資源を循環させていく大切さを学ぶなど、多方面の知識を得ることが必要となる。

- ・健康な土作りと資源循環：微生物の多様性を受け入れられる健康な土から出来た作物は安心・安全・おいしい。ただ食品副産物を有機肥料にリサイクルするのではなく、排出する食品会社に安全性を証明してもらうなど、一定の責任を担ってもらう。( 具体的には年2回の成分分析、有害物が無いことを証明する分析を行い事務局に報告 )。この、良質な有機肥料を使うことにより、土の中の微生物、虫たちの力を引き出し、健康な土となる。また、土壌診断により、適正に施肥されるよう管理する。
  - ・休耕地を花いっばいに：農地の荒廃を食い止めるため、休耕地に菜の花・ひまわりを栽培し、景観・環境美化に役立てている。収穫用・観賞用に利用した休耕地はH15年度：約10haから、H17年度：約40haまで拡大。今後、観光利用・環境学習の場へとつなげていく。この取組が新聞や地元カレンダーに掲載されるなど話題となった。
- 地産地消：栽培した菜の花は摘み菜として食用にも出来る。また、H15年度より地元油脂メーカーに委託し、地元産菜種を100%使用した「豊田・加茂のなのはな油」を製品化。H15年度生産量300kgから、H17年度には約3t（見込み）に増産。地域の特産品になるようがんばっている。安心・安全・高品質な油の生産に成功し、農協・消費者グループにも受け入れられ、大きな輪が広がりつつある。

- ・イベント、広報活動、勉強会
  - ・愛知万博に菜の花を出展
  - ・菜の花観察会：会員の方々と菜の花の花見、摘み菜試食会
  - ・愛知万博でボランティア活動：「菜の花プロジェクト」説明ボランティアに参加
  - ・日本土壌肥料学会、日本土壌微生物学会に参加：土の健康について学ぶ
  - ・消費者グループや農協中央会女性部と廃食油を利用したせっけん作り勉強会
  - ・地元大学生、農協中央会女性部に菜の花・ひまわりの栽培指導
  - ・県内の菜種生産グループと菜の花栽培の勉強会
  - ・子供たちに廃食油からせっけん作りの環境教育
  - ・「緑とともに」発行（会員の情報交換、共通理解を深める）
  - ・地元イベント（産業展・町民展など）に参加：種の配布花いっぱい運動の推進

## 活動の規模

項目	H12	H13	H14	H15	H16
生産量	800	1,000	1,500	1,500	2,000
解説	(有)花丘商事 有機肥料製造量 (t)				
売り上げ	60,000	70,000	80,000	80,000	100,000
解説	(有)花丘商事 有機肥料製造・販売料金 (千円)				
来客数				5,000	5,000
解説	イベント来客 (のべ人数)				
雇用者数	5	5	6	6	7
解説	(有)花丘商事 従業員 (人)				

## 地域活性化のポイント

- ・ 食品副産物を有機肥料へ変え、資源循環に貢献、土に活力を与え、今までにない安全性を確立。
- ・ 遊休地・休耕地を利用し環境美化
- ・ 生産から消費まで一貫して消費者・近隣住民に関わり意見を聞く。
- ・ 資源循環と地域の活性化に貢献するため、地域振興のイベントに参加し、花いっぱい運動を推進 (種の配布)。
- ・ 様々な団体との勉強会や情報交換、協力をを行う。

## 事業の今後の展開方向

- ・ 菜種収量増産のための栽培方法や施肥方法を検討しており、さらに研究する。
- ・ 「豊田・加茂のなのはな油」は290g、525円。安い輸入品に負けないよう、安心・安全・おいしい・環境にもやさしいことをもっと広くPRしていききたい。
- ・ この地方ではリサイクルの輪が繋がっておらず、廃食油の回収・再利用(せっけん、BDF)の課題が残されている。関係団体の力を借り、回収の働きかけを始めている。
- ・ また、農機具メーカーでBDFを使用するエンジン開発が必要になっている。
- ・ 活動が多岐にわたり、もっと多くの方の助言やもっと多くの勉強が必要であり、環境について学んでいる方々とさらに意見交換・情報交換をしていきたい。

